



学友会 会報

第18号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301 TEL (0574) 26-7121
FAX (0574) 26-0840



会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学学友会会長 丹地章夫



本年も会報発刊の時期となりました。

会員の皆様方には、

益々御健勝で御活躍のことと、お慶び申し上げます。

平成十年度の事業計画も、順調に実施されており、ここに御報告申し上げます。

学友会も結成以来三十年という節目を迎え、卒業生も一八、〇〇〇名を超える数となりました。我々の母校も、益々充実した教育環境の元、時代の求める人間創りに向け、様々な試みがなされておりますことを、大変心強く感じております。

不況と就職難の時代にあつて、本年度九五%という高い就職率が得られましたことひとつをとってみましても、その陰にあつた御努力は想像をはるかに越えるものであつたらうと推察致します。

しかし、今後益々厳しい時代に入入して行くであろうことは、誰の目にも明らかです。今、学校も、そこで学ぶ人達も、今を生きる私達も、より広い視野を持ちながら、常に前向きに、しかしながら基本を忘れずに生きていくことが大切であろうと思ひます。地に足の着

かない考えや行動は、無理矢理通しても、後々必ずその反動が我が身に返ってくるものです。反対に、しっかりと足下を固めて行ける人は、必ず大きな花の咲く日を迎えることができると思ひます。

人の一生は、日々のほんの小さなことと思ふことの積み重ねです。それらを小さいと考えるか、大切なことと考えるかで全く違つた生き方になると思ひます。

こうした厳しい時代こそ、逆に飛躍のチャンスと捉え、自分自身を磨き、前向きに生きていくことでありませつか。

さて、前号でも申しましたように、諸事情に伴い、中日本自動車短大も志願者数減という厳しい状況にあり、会員皆様のより一層の御協力、御支援をお願い申し上げます。母校の発展こそが、私達学友会の発展でもあるとお考えいただき、学生募集に対し、尚一層の御協力をよろしくお願い申し上げます。詳細は母校、学友会事務局までお問い合わせ下さい。同窓子女入試制度、学友会推薦制度の活用も併せてお問い合わせ下さい。最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大な御協力、御援助を賜りました大学関係者並びにOB諸兄に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。



ご挨拶

中日本自動車短期大学

学 長 有 馬 泉

学友会の皆様、お元気で御活躍のことと存じます。

まず、今年度の執行部についてご報告いたします。工学教室主任中島教授、工学教室主任補佐西側助教、実習教室主任兼専攻科車体整備専攻主任桜谷教授、専攻科自動車工学専攻主任兼学生部長補佐脇教授、学生部長大塚教授、入試委員会委員長田中教授、事務局長岡田助教、後藤事務局次長、柘植学生部次長です。

次に、今年度の入学生は、五百十名で、うち、同窓生推薦入学者四名です。学友会関係者に厚く御礼申し上げますと共に、今後共に協力のもと、お願い申し上げます。また、留学生は二十八名で、韓国から一名、中国から二十七名です。中国からの留学生は、本学と教職員との相互交流協定を結んでいます。湖北汽車工業学院、濟南交通高等専科学校および南京中日合作語原専修学院からの学生です。

さらに、専攻科自動車工学専攻十名、今年度新しく設置された専攻科車体整備専攻(一年過程)十六名です。

さて、今年度の留学生を除いた入学生は、四百八十一名で、昨年度より四十八名減少しました。こ

の減少率は、日本の十八才人口の減少率より大きく、高校生の四年制大学志向、専門学校志向、地元志向がますます強くなり、本学を取り巻く環境は厳しくなっています。この環境の変化を素直に認識し、本学の将来を展望し、今何をなすべきかを教職員総力を結集して検討したいと思っております。新しい入試実施を含む入試広報活動のあり方、学生にとって魅力があり、しかも国家資格が確実に取得できる教育内容の改善、長引く経済不況の中での就職活動などの課題について早急に結論を出し、できるものから実施していきたいと思っています。

昨年度の就職率は、約九十五%でした。これは本学創立以来約一万七千名を越す学友会の皆様方のご活躍により、関係会社の本学に對する高い評価と深いご理解が得られているためと思っております。しかし、今年度の就職の状況は大変厳しく、是非とも学友会の皆様のご援助をいただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、学友会の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。

学友会の皆様、私は昨年の十月より事務局長を担当することになりました。皆様と同じ卒業生の一員として、微力ではございますが母校の発展のために尽くす所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



厳しい経済状況の中で

中日本自動車短期大学

事務局長 岡 田 俊 治

さて、母校においては、本年度は専攻科に車体整備専攻が設置されました。車体整備士資格の取得を目指す方々には、新たな教育機関として注目されています。

また国際化を進めている中で、今年の四月に二十八名の留学生を受け入れ、そうした留学生たちの激励と、本学視察を目的に、中国の協定校の一つである湖北汽車工業学院から、劉院長先生をはじめとして四名の先生方が、本学を訪問されました。

その他、施設設備においては、設置後六年を経過した情報処理演習室の設備を更新します。約四千万円の規模でコンピュータやソフトウェアを入れ換え、CAD演習の授業では三次元CADも使えるようになります。

一方、一九六七年の母校創立以来三二年を経て、いよいよ二世紀を迎えようとしています。今日の日本の経済は大変厳しい状況

にあり、そうした社会の中で、卒業生の皆様は懸命に努力されていることと存じます。そのような社会背景のもとで、母校への求人状況も非常に厳しいものとなりました。来春卒業する予定の学生(自動車工業科、専攻科自動車工学専攻・車体整備専攻)たちへの就職指導とともに、求人開発を積極的に行っておりますが、卒業生の皆様からも、採用に関する情報をお持ちの場合は、ぜひとも母校の学生部就職係へご一報いただければ幸いです。

今一つ、経済状況とあわせて、一八才人口減少などの影響により、入学者数が定員の六〇〇名を維持することが難しい状況が続いております。他に示されているように、卒業生の皆様から入学希望者を推薦していただく同窓生推薦入学試験を実施しております。卒業生の皆様の子供とか知り合いの方など、母校への入学希望の方を、ぜひともご推薦下さいますようお願い申し上げます。

最後に、学友会の益々のご発展と、会員各位のご健勝を祈念申し上げます。

大学で学んだ基礎知識を基に社会への第一歩を踏み出した。現在、私は今年の四月からBUNTON名古屋サービス部に勤務しております。自動車業界の一員として私が毎日接するお客様に最良のサービスをし、それによって好ましい人間関係を作ることこそ最善を尽くしています。

OB近況



第31期生(韓国)

李 在 仁 さん

近年、消費者の好みが内向し、流行が見えなくなるといわれております。それぞれが自分の拘りを持ち、その拘りも細分化しているからです。人々は拘りを託せるものを敏感にとらえ、そして選んだものを通じて自分らしさを演出することを楽しんでいる。もはや自動車は生活必需品ではない。それは自分らしさの表現であり、自己満足である。

私は21世紀に向かって、これからの自動車業界に小さな力ですが役に立てるようバスターを尽くして頑張りたいと思っております。

最後に、学友会の皆様のご健闘と会員各位のご幸福を祈念申し上げます。

在校生より



2年生(韓国)
金 丞官さん

日本語学校で日本語を勉強しているうちに、自分の進路を決める時がやってきました。私は日本に来る前から自動車に関係のある仕事に就くと思っていたので、この中日本自動車短期大学に入学しました。東京の近くにはいろんな自動車専門学校がありますが、国へ帰って整備士の資格を取るためには短期大学じゃないと整備士の資格は取れません。

去年四月に坂祝に来てびっくりしました。東京の賑やかな町から何も無い本当の田舎、一瞬帰国するかと思いましたが、ここで2年間我慢すれば、自分がやりたいことが何とかなると思いがちでした。

時間が経つにつれて生活にも慣れ、良き先輩達もいて、東京では感じることができない田舎生活の楽しさもありました。最もいいのは田舎ならではの情を感じることです。頼めば何でもやってくれる先生もいるし、相談に乗ってくれる先輩もいるし、現代人が夢のように考える自然との生活もできるし、この学校に入学して良かったと思っています。

先生と話をしているうちに日本語が少しずつ上達するのを感じま

すので、先生に対しては感謝の気持ちを持っていきます。

今はなにも足りない生活を送っていますが、来年の春が訪れて来たら整備士になって就職するか、ほかの大学へ編入学するか、どちらにしても、この中日本自動車短期大学をあとにして行きます。

一年後に私はこの学校を卒業するけど、この学校での思い出は一生忘れません。自分の国へ帰って...



1年生
二宮 有香さん

入学してから月日が経ち、学校にも慣れ始め、友達も沢山出来、毎日が楽しい大学生活を送っています。入学したばかりの頃は、中学、高校と六年間女子校に通っていた私にとっては、学校の環境の違いに戸惑いがありました。先生方の優しいお心遣いや、友達への支えのおかげで、充実した楽しい生活を送ることができています。

私は中学三年生の頃から自動車に興味を持ち、この中日本自動車短期大学を受験し入学しました。授業内容(特に実習授業)は、部品が多く、また複雑なためとても難しく、なかなかスムーズに出来ませんが、自分の好きなことが学べることをとても嬉しく感じています。また、同じことに興味を持った友達に出会えたこともとても

嬉しく思っています。

これから卒業するまでの大学生生活で、さらに多くのことに興味を持ち、学び、より多くのことを身に付けながら、楽しい有意義な大学生生活を送っていきたくと思っています。



1年生
市川 恵さん

四月は分からないことばかり、知らない人ばかりで新鮮と思う反面、これからちゃんとやっていけるかどうかとても不安でした。でも、入学して二ヶ月が経つ今では、友だちも増え、学校の雰囲気にも慣れてきました。

授業では、高校時代に習った教科や初めて習う教科、又実習授業もあり、高校時代に習ったことのある教科では分かるからといって油断しないよう、初めての教科では、ちゃんとしていけるように頑張っています。実習授業では、高校時代からずっと学びたかった分野なのでも楽しんでやっています。テストやレポートもあって、大変なこともあります。班の皆で考え合ったり、助け合ったりして頑張っています。

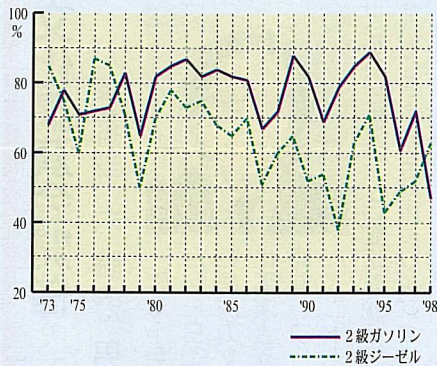
昔からなりたかった自動車整備士の夢を叶えるために、少しでも多くの知識と技術を取り入れて、自分のものにして卒業できるように頑張りたいと思います。

認定試験の合格率

技術研修課

毎年行われる二級整備士認定試験の結果を報告します。今年度は第三十一期の学生が三月二十一日に受験をしました。その結果、二級ジーゼルは例年並の出題傾向で合格率が昨年よりも上回りました。二級ガソリンは例年の出題傾向にない問題が出題されたため昨年を大きく下回りました。従って今回は二級ジーゼルの合格率が二級ガソリンの合格率を上回る結果となりました。今回の試験の出題レベルから考えますと、非常に残念な結果に危機感を感じています。より一層の合格率の向上を目指し全力で取り組んでいきたいと思っています。

最後に、学友会の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。



1998年度

事業計画

● 総会の開催

● 大学近辺で開催する。開催場所日程については、役員会にて決定する。

● 開学30周年記念事業について

● 開学記念事業を行う。
● 30周年記念名簿販売を行う。

● 会報の発行

● 会報を発行する。

● 支部設立に向けて

● 積極的な取組を展開する。また既存の支部の活性化を図る。
● キャンパスグッズの一層の充実を図る

● 試作品を作る。

● グッズを作成する。

● 大学との懇談会を行う

● 準会員との交流会を持つ

● 10月中頃の予定

● 講演会の開催

● 研究者、専門家等の講演を行う。
東京交通短期大学講師
齊藤俊彦先生

「自動車の渡来100年」

10月31日、213教室

● 退職者に記念品贈呈する

● 卒業生に記念品を贈る

● 学友会規約を配布する。

● 3000円程度のものを贈る。

● 積立金(学友会館設立積立、奨学金積立)について

● 継続する。

● 奨学金支給をする

● OBへの福利厚生

● 長島温泉割引(適切なものがあれば随時考える)

● 学生募集への協力

● 同窓生子女推薦等



ご挨拶

中日本自動車短期大学

学 長 有 馬 泉

学友会の皆様、お元気で御活躍のことと存じます。

まず、今年度の執行部についてご報告いたします。工学教室主任中島教授、工学教室主任補佐西側助教、実習教室主任兼専攻科車体整備専攻主任桜谷教授、専攻科自動車工学専攻主任兼学生部長補佐脇教授、学生部長大塚教授、入試委員会委員長田中教授、事務局長岡田助教、後藤事務局次長、柘植学生部次長です。

次に、今年度の入学生は、五百十名で、うち、同窓生推薦入学者四名です。学友会関係者に厚く御礼申し上げますと共に、今後共に協力のほど、お願い申し上げます。また、留学生は二十八名で、韓国から一名、中国から二十七名です。中国からの留学生は、本学と教職員の間で交流協定を結んでいます。湖北汽車工業学院、濟南交通高等専科学校および南京中日合作語原専修学院からの学生です。さらに、専攻科自動車工学専攻十名、今年度新しく設置された専攻科車体整備専攻（一年過程）十六名です。

さて、今年度の留学生を除いた入学生は、四百八十一名で、昨年度より四十八名減少しました。こ

の減少率は、日本の十八才人口の減少率より大きく、高校生の四年制大学志向、専門学校志向、地元志向がますます強くなり、本学を取り巻く環境は厳しくなっています。この環境の変化を素直に認識し、本学の将来を展望し、今何をなすべきかを教職員総力を結集して検討したいと思っています。新しい入試実施を含む入試広報活動のあり方、学生にとって魅力があり、しかも国家資格が確実に取得できる教育内容の改善、長引く経済不況の中での就職活動などの課題について早急に結論を出し、できるものから実施していきたいと思っています。

昨年度の就職率は、約九十五%でした。これは本学創立以来約一万七千名を越す学友会の皆様方の活躍により、関係会社の本学に対する高い評価と深いご理解が得られているためと思っています。しかし、今年度の就職の状況は大変厳しく、是非とも学友会の皆様のご援助をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

最後にになりましたが、学友会の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。

最後にになりましたが、学友会の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。



厳しい経済状況の中で

中日本自動車短期大学

事務局長 岡 田 俊 治

学友会の皆様、私は昨年の十月より事務局長を担当することになりました。皆様と同じ卒業生の一員として、微力ではございますが母校の発展のために尽くす所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、母校においては、本年度は専攻科に車体整備専攻が設置されました。車体整備士資格の取得を目指す方々には、新たな教育機関として注目されています。また国際化を進めている中で、今年の四月に二十八名の留学生を受け入れ、そうした留学生たちの激励と、本学視察を目的に、中国の協定校の一つである湖北汽車工業学院から、劉院長先生をはじめとして四名の先生方が、本学を訪問されました。

その他、施設設備においては、設置後六年を経過した情報処理演習室の設備を更新します。約四千万円の規模でコンピュータやソフトウエアを入れ換え、CAD演習の授業では三次元CADも使えるようになります。

一方、一九六七年の母校創立以来三十二年を経て、いよいよ二世紀を迎えようとしています。今日の日本の経済は大変厳しい状況

にあり、そうした社会の中で、卒業生の皆様は懸命に努力されていることと存じます。そのような社会背景のもとで、母校への求人状況も非常に厳しいものとなりました。来春卒業する予定の学生（自動車工業科、専攻科自動車工学専攻・車体整備専攻）たちへの就職指導とともに、求人開発を積極的に行っておりますが、卒業生の皆様からも、採用に関する情報をお持ちの場合は、ぜひとも母校の学生部就職係へご一報いただければ幸いです。

今一つ、経済状況とあわせて、一八才人口減少などの影響により、入学者数が定員の六〇〇名を維持することが難しい状況が続いております。他に示されているように、卒業生の皆様から入学希望者を推薦していただく同窓生推薦入学試験を実施しております。卒業生の皆様の子供とか知り合いの方など、母校への入学希望の方、ぜひともご推薦下さいますようお願い申し上げます。

最後に、学友会の益々のご発展と、会員各位のご健勝を祈念申し上げます。

最後に、学友会の益々のご発展と、会員各位のご健勝を祈念申し上げます。

OB近況



第31期生（韓国）
李 在 仁 さん

大学で学んだ基礎知識を基に社会への第一歩を踏み出した。現在、私は今年の四月からBLUE LION名古屋サービ入部に勤務しております。自動車業界の一員として私が毎日接するお客様に最良のサービスをし、それによって好ましい人間関係を作ることにも最善を尽くしています。

近年、消費者の好みが内向し、流行が見えなくなつたといわれております。それぞれが自分の拘りを持ち、その拘りも細分化しているからです。人々は拘りを託せるものを敏感にとらえ、そして選んだものを通して自分らしさを演出することを楽しんでいる。もはや自動車は生活必需品ではない。それは自分らしさの表現であり、自己満足である。

私は21世紀に向かって、これからの自動車業界に小さな力ですが役に立てるよう、ベストを尽くして頑張りたいと思っています。

最後に、学友会の皆様のご健闘と会員各位のご幸福を祈念申し上げます。

